

建設水道常任委員会

橋梁の長寿命化に関する調査報告

調査目的

わが国の道路、橋梁等公共インフラは、高度経済成長期において急速に整備が進められましたが建設から数十年が経過し、コンクリートの劣化等による老朽化が顕著になっております。

2つ目に、「橋梁の長寿命化に係る先進事例等に関する調査について」を設定し、当局から詳細な説明を聴取するとともに、先進事例等の調査のため、参考人からの意見聴取や行政視察など、計11回にわたる調査を実施いたしました。



委員会・参考人招致の様子

調査の経過

調査の項目として、1つ目に、「本市の橋梁に関する取り組み及び長寿命化に関する現状と課題に関する調査について」

調査のまとめ

①橋梁点検、修繕等に係る人員不足に対する取り組みについて

①橋梁点検を担う人材と再任用など、専門的知識を有する人材を積極的に活用することが必要です。また、PPPなどの民間事業者が持つ力を活用し

た維持管理手法も検討する必要があります。民間事業者に対する技術的・財政的な支援を積極的に国、県へ求めていくべきです。

②橋梁の維持管理におけるマンパワーの補完、インフラに対する愛着や興味関心の醸成、老朽化に対する問題意識の共有という点から、排水溝の清掃、堆積土砂の撤去などの日常的な維持管理について、地域住民と協働で行うことが必要です。

②職員の技術力向上への取り組みについて

①職員が積極的に研修会などへ参加できる体制づくりを行うほか、資格取得に向けた啓発や組織的なサポート、資格取得者に対するインセンティブなどについて検討する必要があります。

③今後の橋梁長寿命化修繕計画更新において考慮すべき点について

①橋梁長寿命化修繕計画の更新に際しては、橋梁ごとの点検をしっかりと行い、その結果に基づく劣化予測の検証や状況に合わせた優先順位の見直しなどを行う必要があります。

④維持管理コスト削減への取り組みについて

①予防保全、事後保全、架け替えのベストミックスや、過度の点検・修繕の未然防止による維持管理コストの削減を図るため、交通量や利用状況などの変化に応じて、維持管理シナリオ、点検サイクルや維持管理水準の見直しを適宜検討すべきです。

②利用者の減少等を理由とした橋梁の廃止、集約化などの必要性を含めた中長期的な課題への対策も今後検討する必要があります。

⑤市民の理解と協力を得るための取り組みについて

①橋梁の長寿命化に関する取り組みには市民の理解と協力が不可欠であり、橋梁に関する情報提供を積極的、継続的に行い、老朽化していく橋梁への問題意識を市民と共有し、長寿命化の必要性、重要性について理解を深めることが必要です。

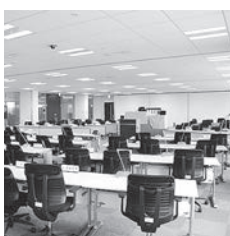
本年8月から市議会の会期が通年となります

福島市議会はこれまで年4回、3、6、9、12の各月に、議会が活動できる期間を会期として定め、この会期の中で本会議や委員会を開いておりました。本年4月に施行した議会基本条例において会期を通年とすることを定めたことに伴い、本年8月から、会期を1年間とすることを決定しました。

例えば、災害時に必要な予算や国へ様々な要望を伝える意見書などを速やかに審議できるようにいたします。

代表質問や一般質問、委員会などは、1年の会期中の9、12、3、6月に開催される「定例会議」の中で集中して行われるため、基本的な年間スケジュールは以前と変わりませんが、1年を通して議会活動ができるようになったことから、例

このように、緊急の行政課題等が発生した場合、速やかに対応できるとともに、委員会がそれぞれの所管分野で自主的に市政の課題について調査を行う所管事務調査が、時機を逸せず詳細な調査が可能となることから、委員会活動を充実させることもできるようになります。



市役所7階議場の様子



平成20～21年度に耐震補強工事を終えた上蓬菜橋の様子